

## 第1回広島市タバコ対策懇談会 会議要旨

### 1 会議名

第1回広島市タバコ対策懇談会

### 2 開催日時

令和6年5月24日（金）19：00～21：00

### 3 開催場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

### 4 出席委員（13名）

渡邊委員、久保委員、渡委員、河村委員、櫻井委員、金沢委員、西本委員、佐々木委員、赤木委員、野津委員、赤松委員、若狭氏（代理出席）、鉢前委員

### 5 事務局

健康福祉局保健部参与(事)健康推進課長、環境局業務部業務第一課長、企画総務局総合調整課長

### 6 議題

- (1) 懇談会の進め方について
- (2) 本市における受動喫煙や吸い殻のポイ捨ての現状・課題等について

### 7 公開・非公開の別

公開

### 8 傍聴人

0名

### 9 会議資料

資料1：広島市健康づくり計画「元気じやけんひろしま21（第2次・第3次）」に基づく喫煙分野の取組について

資料2：喫煙制限区域外における路上喫煙及びポイ捨てに関する実態調査の結果等について  
参考資料

### 10 会議要旨

- (1) 懇談会の進め方について  
意見交換を円滑に行うため、委員の中から進行役を選任することとし、委員の互選により進行役は渡邊委員に決定した。

- (2) 本市における受動喫煙や吸い殻のポイ捨ての現状・課題等について

ア 委員からの報告

渡邊委員（福山市立大学大学院）

- ・地元の福山市では、2021年度から福山市路上喫煙防止対策協議会の会長を務めるほか、様々なまちづくりに携わっている。
- ・福山市では、2025年5月に第20回世界バラ会議の福山大会が開催され、国内外から多くの方をお迎えするに当たり、市内全域は路上喫煙をしないよう努める、特に市の玄関口である福山駅周辺には路上喫煙を禁止する区域を設けて受動喫煙となる行為を排除し、そして区域内に喫煙所を設けて分煙を進めるという路上喫煙対策に取り組んでいる。

- ・誰もが快適に過ごせる公共空間を創出することが大切だと思い、それに向けて取り組んでいきたいと思っている。

#### 久保委員（広島大学大学院）

- ・健康を目指していく取組は、誰も反対しないものであるが、実現することは簡単ではない。住民一人一人にアプローチするだけでなく、まちづくりとして取り組んでいかないと解決できない問題が多くある中、今回の懇談会は大切な機会だと考えている。
- ・どんな政策も良い面と悪い面があり、人によっては良くないものとして受け止められる。こうしたことにもきちんと目を向けて、良い影響を大きく、悪い影響をできる限り小さくするための先読みをした議論ができれば良い。
- ・社会学の観点から言えば、声を上げにくい方々の意見をどう取り上げるかが重要である。今回の問題の中では、子どもたちのことや喫煙者に対する禁煙サポートのことなども含めて議論していきたい。

#### 渡委員（広島県医師会禁煙推進委員会）

- ・喫煙は、がんに限らず、肝疾患、脳梗塞、心筋梗塞、その他様々な病気につながるものであり、禁煙推進の取組が絶対に必要だと考えている。
- ・地元の小・中学校で喫煙防止授業に長年取り組んでいる。子どもたちの約 90% がコンビニ等で受動喫煙に遭ったことがあると答えており、一人の大人として、子どもたちに受動喫煙させていることは恥ずかしい限りである。
- ・廿日市市ではコンビニの各店舗に対して灰皿を置かないよう申し入れるも、なかなか進まない状況がある。広島市で、こうした会を開催することは良い方向に向かうものと確信している。
- ・サッカースタジアム等の敷地内禁煙をお願いしていたが、結果、施設内に喫煙ブースが設置された。ハーフタイムに外で喫煙する人も多くおり、非常に残念である。

#### 河村委員（広島市医師会）

- ・本懇談会においては、医師、開業医として役に立ちたいと考えている。
- ・広島市医師会の取組の一例としては、広島市の「元気じやけんひろしま 21（第 2 次）」の取組の中で、COPD の診断・治療及び広報活動などに取り組んでいる。
- ・区の単位での代表的な取組は、防煙教室である。西区医師会では以前から小学校等に医師が出向き、防煙について定期的に講演しており、参加された子供さんが家族に禁煙を勧めたとの事例がある。同様の取組を東区医師会でも行っている。
- ・各医療機関の取組としては、禁煙外来があるが、患者を強く誘導しないと禁煙外来につなげることが難しい面があり、このことも取組上の大きな課題である。

#### 櫻井委員（安佐医師会）

- ・ここ 1 年、禁煙薬が枯渇しており、禁煙外来ができない状況である。
- ・受動喫煙の実際の症例を紹介すると、17 歳の重症喘息の患者が、タバコの煙を吸うと 100% 喘息発作を起こしており、治療の薬のために月に約 17 万円、1 年間で約 200 万円の費用が生じた症例があった。
- ・もう 1 例、扁平上皮がんを発症して亡くなられた症例があり、肺の中にタバコの煙による炭粉沈着等があった。本人は非喫煙者だったが、ご主人がヘビースモーカーであり、ご主人のタバコが原因だったのではと思うと非常に残念である。
- ・受動喫煙が周囲の家族や会社の同僚の健康を損なうという事例はやはりあると思い、まずは今日の議題の 1 つである受動喫煙が早くゼロになれば良いと思っている。

#### 金沢委員（安芸地区医師会）

- ・ぽい捨ての問題に関して、コロナ禍が終わって海外の方が多く来られる中、国や地域によって喫煙に関する考え方方が違うことがあり、インバウンド対策としても考えていく必要があると思っている。
- ・イギリスでは去年の 10 月から、2009 年 1 月以降に生まれた人へのタバコの販売を禁止し、喫煙者を順次減らしていくという強力な政策を進めており、驚いている。

### 西本委員（広島商工会議所）

- ・禁煙対策は企業の社会的責任の一環として求められており、受動喫煙防止としての喫煙に関する環境整備、健康維持増進としての個人の禁煙サポートの両面から取り組む必要がある。
- ・喫煙に関する環境整備としては、喫煙場所を段階的に減らしていく取組、禁煙タイムや禁煙デーを設定する取組事例がある。また、喫煙者の意識改革として、喫煙室へタバコの害を訴える広告等の掲示、禁煙成功者の声や応援メッセージの紹介等の取組事例がある。
- ・個人の禁煙サポートとしては、産業保健師の面談による禁煙達成のサポート、禁煙補助薬の購入、禁煙外来の治療修了者への受診費用の一部補助等の取組事例がある。
- ・今後、受動喫煙防止に取り組む際には、3次喫煙も意識する必要があると感じている。

### 佐々木委員（広島県生活衛生同業組合連合会）

- ・繁華街である流川・薬研堀で、23年前から毎月1回清掃を実施しているが、タバコの吸い殻が多く落ちていた当時と比べ、道路はかなり綺麗になった。一方、（コインパーキングなどの）駐車場に行くと、ごみが多く捨てられている。
- ・お店に関しては、外に灰皿を置いたり、中に喫煙室を作ったりしているが、店内で喫煙できるお店もある。完全に禁煙にすることは難しいとも思っている。
- ・タバコのポイ捨ては減ったが、喫煙が完全になくなることはないと思っており、多くなくとも良いので喫煙できる場所を作って、そこで喫煙してもらうことが必要ではないかと思っている。

### 赤木委員（広島県バス協会）

- ・バスに関しては、現在、乗合も貸切も車内全面禁煙である。我々の守備範囲は、乗車から降車までであり、我々の取組としてポイ捨てや受動喫煙という話は出てこない。
- ・バスセンターの到着ホームに喫煙所がある。バスセンターに聞くと「健康増進法で規制されていない屋外に当たり、喫煙室内の換気は（屋内喫煙室に適用される）基準を満たしている」ものであって、法的に問題はないが、時折、煙たいという苦情も入ると聞いている。
- ・広島城の南東に貸切バス用の大きな駐車場があるが、RCCの南側に屋外の喫煙所があるため、乗客が降車後に喫煙し、周りから煙たいという意見が入っていると聞いている。

### 野津委員（西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部）

- ・駅や列車の喫煙環境については、駅の構内や列車内の喫煙場所がほとんどなくなり、特に、今年3月のダイヤ改正に合わせて、新幹線車内にあった喫煙ルームが廃止になった。
- ・性急に灰皿を減らすとハレーションが大きく、隠れた場所でタバコを吸われることがあり、特に新幹線車内の喫煙ルームを廃止して以降、車内のトイレでの喫煙がかなり増えている。
- ・あまりに性急過ぎるとハレーションが起きると考えられるが、喫煙場所を減らしていくという方向性は止められないものであり、その方向で進めていくべきとは考えている。

### 赤松委員（日本たばこ産業株式会社 広島支社）

- ・イベントの際に設置した喫煙所では、喫煙者が入りきらずに枠から出てしまうケースがあった。ただ、マナーを守りたくても守れるような環境が整っていないという問題もある。社会全体として現実を受け入れた時に、この問題を放置していることが大きな問題だと考えている。
- ・イベントなどで人が集まる際、ゴミ箱やトイレ等についてはしっかりと準備・対策がされているのに、なぜ喫煙に関しては対策がされにくいのか疑問に感じている。
- ・喫煙所を撤去する等だけではこの問題は解決されず、環境が悪化していくことを踏まえると、実効性のある対策を考えていく上で、まずは問題の所在をしっかりと捉えて課題化し、この課題解決のために現実性のあるPDCAを皆さんと一緒に展開できればと思っている。

### 若狭氏（広島市中央部商店街振興組合連合会）

- ・アリスガーデンや袋町公園では、イベントが行われると吸い殻のポイ捨てが多くなる。特にアリスガーデンは、日頃からポイ捨てが多い。昔はアリスガーデンに灰皿があり、多くの吸い殻は灰皿内に捨てられていたが、灰皿が撤去されて以降、アリスガーデン全体に吸い殻が落ちている状況である。やはり喫煙マナーの問題は大きいと感じている。
- ・商店街では、昔と比べると半分くらいになってはいるが、やはりタバコの吸い殻が落ちている。人通りが多い時間帯に喫煙する人は少なく、閉店後の夜間に喫煙する人が多い。

- ・ぽい捨てをゼロにできるのが一番だが、ゼロにできないのであれば、吸い殻を減らす意味でも、喫煙できる場所を作ることが必要ではないかと思っている。

#### **鉢前委員（広島駅周辺地区まちづくり協議会）**

- ・月に1回実施している「おもてなし一斎清掃」では、ごみの約8割がタバコの吸い殻であり、1回平均1,000本程度である。周辺の河岸緑地やバス停も同様にごみの約8割が吸い殻である。
- ・広島駅周辺において、どこが喫煙可能な場所か分からぬ人が多いのではないか。現に広島駅周辺には海外から来た方が非常に多く、喫煙場所を片言で尋ねられることが多くある。
- ・お客様や従業員を抱える現場としては、建物内を禁煙にしたとしても、敷地外に出て吸われると近隣への迷惑になるため、受動喫煙対策として、喫煙場所を設けざるを得ない面がある。本懇談会では、こうした現場としての意見を申し上げていきたい。

#### イ 本市の取組について

##### **事務局（健康推進課）**

- － 資料1「広島市健康づくり計画「元気じやけんひろしま21（第2次・第3次）」に基づく喫煙分野の取組について」を説明－

##### **事務局（総合調整課）**

- － 喫煙状況予備調査の結果を説明－

##### **事務局（業務第一課）**

- － 資料2「喫煙制限区域外における路上喫煙及びぽい捨てに関する実態調査の結果等について」を説明－

#### (3) 意見交換

#### 《喫煙率の減少に向けた取組について》

##### **渡委員**

- ・喫煙する人がなくなることを目指すべきで、現にイギリスは国を挙げて施策を進めている。日本は遅れており、もっと市民レベルで盛り上げていかないといけない。
- ・目指すべきところは、喫煙する人が少くなり、かつ、決められたところで吸うなど、喫煙者がマナーを守って受動喫煙を生じさせないことである。安易に喫煙ブースを増設すればいいということではないと思う。
- ・禁煙に対する意識やマナーの向上のために、一般市民に向けた啓発や子供たちへの教育、そして企業の責任者や産業医から従業員等に呼びかけてもらうことにもっと取り組むべきである。
- ・スポーツ施設における喫煙ブースは撤去すべきであって、逆にマツダスタジアムやエディオンピース ウイング広島のスクリーンを活用する等、一般市民や子どもたちが多く集まる場所において、受動喫煙防止や禁煙推進についてアピールをしたら良いと思われる。

##### **鉢前委員**

- ・喫煙者は医師等から禁煙の勧めを多数受けているが、それでも喫煙している方が多いと感じており、そのため、禁煙の難しさを感じている。

##### **金沢委員**

- ・全体の喫煙者は減っているが、やはり一定数以上は減らない。イギリスのように最初から喫煙者を作らないことしかないが、一遍にはできないので、多方面から対策していくしかないと思う。

##### **河村委員**

- ・本当にマナーの一言だと思う。マナーは教育のレベルからきちんとやらなければならず、成果が出るのは随分先のことだと思う。
- ・禁煙にはきっかけがあり、例えば、禁煙しないと孫に会わせてもらえないとか、妊娠などがある。喫煙者の行動や心理をどうやって変えていくか、世代によってキーワードは違うと思う。
- ・最近は新聞やテレビを見ない人も多くいるので、SNSによる情報発信も必要であると思う。

### 櫻井委員

- ・禁煙外来で診察する患者が禁煙する理由として、以前は自身の健康問題や家族問題で禁煙する人が多かったが、現在は、「タバコを吸える場所がなくなったから」という理由が半数ぐらいであり、吸える場所を減らすことは大事である。
- ・喫煙者に50歳などの節目年齢でCTの検査を受ける機会を設ける等、肺気腫を早期に発見するという対策も大切である。COPD（タバコ肺）という言葉の認知度が低く、どうやって周知させたら良いかと考えている。

### 久保委員

- ・事務局（健康推進課）の資料の中で、20歳未満の喫煙率が現状0%もあるが、本当に0%なのかという疑問も感じている。取りこぼされてしまっている子供たちがいるのであれば、取り組むべき大切な問題だと思う。
- ・最終的には喫煙率の減少というのは本質的な問題だと思うので、そこに向かって真摯に議論できると良いのではないかと思っている。

## 《ぽい捨て・受動喫煙防止対策の推進について》

### 若狭氏

- ・グランドパーキング21という駐車場の一角が喫煙所となっており、そこを管理している中の棚商店街振興組合（中振連の構成団体）の事務局長である尾崎氏から、喫煙所の状況をお伝えしたい。
- 尾崎氏から説明—
- ・当該喫煙所について、改正健康増進法が施行されてから、人が多数押し寄せるようになり、JTの協力を得ながらパーテーションの設置といった対策を行ってきたが、臭い、外に人が溢れているなどの苦情がある。
  - ・コロナ禍では、喫煙所の中が密になるため閉鎖したところ、ぽい捨ての増加や喫煙所以外の民地での喫煙などの苦情が増えた。
  - ・現在はコロナが収束したため、喫煙所を再び開放しているが、相変わらず人が多数押し寄せ、溢れており対応に苦慮している。

### 佐々木委員

- ・飲食店では、分煙という形で吸わない人に迷惑をかけないマナーを進めていくことが重要である。
- ・店舗の前に灰皿を設置することは、タバコに火がついていることによる危険等から難しい。
- ・ビルの中に喫煙室の設置を要望されたこともあったが、設置階の決定にて、店舗間のトラブルの原因となることから難しい面がある。

### 鉢前委員

- ・ぽい捨て防止指導員は厳しく対応しているが、見かける頻度が少ないため、もっと頻繁に見回りをしてほしい。特に広島駅周辺は、観光客等により人が増えており、その方たちは喫煙可能である場所が分からぬいため、表示や指導員等の啓発が必要と思う。

### 赤木委員

- ・煙を避けられないような喫煙に対する対策が重要である。

### 金沢委員

- ・医師から見た時に中毒性の面から喫煙をやめるのは難しく、喫煙率は0%にはならないことも理解でき、現実を見るということは、喫煙者の権利も認めるこも大切で、マナーを守って正しく喫煙すれば権利があることだと理解した。
- ・ぽい捨てが非常に多いという話に驚いたが、ぽい捨て=紙巻きタバコと考えてよいか。

### 若狭氏

- ・落ちている吸い殻は、ほとんど紙巻きタバコである。
- ・マナーの向上というのは本当にその通りであり、喫煙所が全部なくなることが理想だが、ぽい捨てや吸わない第三者の受動喫煙の被害を少なくするためには、暫定的にでも、吸える場所を作らないとダメなのではないか。広島市は、データを取っているが、仮設喫煙所を作るといった社会実験などの試みはしているのか。

### 事務局（総合調整課）

- ・これまで社会実験を行ったことはないが、今回の懇談会と並行して、調査の一環として何か変化を加え、その変化による効果を検証するといったことは可能である。

### 赤松委員

- ・マナーの問題などそのとおりだと思う。対策を検討する上で、喫煙者を中毒と決めつけるようなワードを用いるのは建設的ではない。
- ・事務局（総合調整課）の資料によると、ぽい捨てなど喫煙者のマナーが悪い点がクローズアップされたように一見見えるが、見方を変えると、灰皿に捨てられている吸い殻の本数は、ぽい捨てされた吸い殻の約 100 倍であり、吸う場所・捨てる場所があれば、きちんと灰皿内に捨てる数が増えている。喫煙できる環境が無くなれば、好きな場所で吸い放題、捨て放題となり、結果、受動喫煙に繋がる可能性がある。

### 櫻井委員

- ・中毒という言葉はあまり良くないという話だが、アメリカやヨーロッパでは喫煙者は精神疾患の 1 つとされており、明らかに健康被害を及ぼすものなので、医学的には中毒と取り扱わなければ難しいところである。

### 久保委員

- ・喫煙が依存症、ニコチン中毒であるというのは、医学的に見れば厳然たる事実であるが、対策を検討しようという場において「中毒」という言葉を用いることが、分断を生みコミュニケーションを取りづらくなるのではというご指摘だと思っており、そうした趣旨であれば理解できる。分断を起こさずに、タバコに対する問題への対策を議論してきたいという気持ちは皆、同じであると思っている。

### 《まとめ》

- ・タバコを取り巻く課題は、マナー、ぽい捨て、受動喫煙、健康問題など、多様であり、1 つの解決策があるわけではなく、様々な課題に対し多方面から対策を講ずることが重要である。
- ・良いまちにしたいという点は全員の共通点であり、そのために分断を起こしたくないという点も皆同じである。
- ・対策を具体的に考えていく必要があり、全部の問題に対して全方位からどのように取り組むかを考える必要がある。
- ・ぽい捨てが多い場所や、喫煙所からはみ出して吸われる場所などの要因分析をした方が良いのではないか。要因分析することにより、対策が検討できるため、要因の深掘りは必要である。
- ・呼びかけの仕方が重要である。単に「マナーの向上」や「受動喫煙の防止」と訴えるだけではマナーは向上せず、受動喫煙は改善しない。そのため、アピールの仕方を少し考えていく必要がある。色々な方々がおり、どういった点に響くかが分からぬいため、呼びかけも多様な方が良い。
- ・次回以降も引き続き様々な意見を交換していきたい。